

TR-IT-0219

日本語基本辞書 (Ver.2) 動詞編マニュアル

ATR Japanese Basic Dictionary (Ver.2)

The Volume of Verbs

Users' Manual

荒川直哉

ARAKAWA Naoya

巖寺俊哲\*

IWADERA Toshiaki

1997年5月

© (株)ATR音声翻訳通信研究所 1997

© 1997 by ATR Interpreting Telecommunications Research Laboratories

---

\* 現在NTT情報通信研究所

## 目次

|         |                                 |    |
|---------|---------------------------------|----|
| 1       | まえがき.....                       | 1  |
| 2       | 辞書の内容.....                      | 1  |
| 2.1     | 見出し語情報.....                     | 1  |
| 2.1.1   | 見出し語.....                       | 1  |
| 2.1.2   | 見出し語の読み.....                    | 2  |
| 2.1.3   | 見出し語の品詞.....                    | 2  |
| 2.1.4   | 見出し語の配列.....                    | 2  |
| 2.2     | 形態素情報.....                      | 2  |
| 2.2.1   | A T R辞書（形態素解析用辞書）の見出し.....      | 2  |
| 2.2.2   | A T R辞書（形態素解析用辞書）の品詞.....       | 3  |
| 2.2.3   | A T R辞書（形態素解析用辞書）の活用型.....      | 3  |
| 2.2.4   | A T R辞書（形態素解析用辞書）の活用行.....      | 3  |
| 2.2.5   | A T R辞書（形態素解析用辞書）の語幹.....       | 3  |
| 2.2.6   | A T R辞書（形態素解析用辞書）の異表記.....      | 3  |
| 2.2.7   | A T R辞書（形態素解析用辞書）の正規形（標準形）..... | 4  |
| 2.2.8   | 音便・連濁.....                      | 4  |
| 2.3     | 意味情報.....                       | 4  |
| 2.3.1   | 語義.....                         | 4  |
| 2.3.2   | シソーラス.....                      | 5  |
| 2.3.3   | 自動詞、他動詞.....                    | 6  |
| 2.3.4   | 用例.....                         | 6  |
| 2.3.5   | 格.....                          | 7  |
| 2.3.5.1 | 深層格.....                        | 8  |
| 2.3.5.2 | 名詞の意味素性.....                    | 21 |
| 2.3.6   | ヴォイス.....                       | 22 |
| 2.3.6.1 | 受身.....                         | 22 |
| 2.3.6.2 | 使役.....                         | 23 |
| 2.3.6.3 | 可能.....                         | 23 |
| 2.3.7   | アスペクト.....                      | 23 |
| 2.3.7.1 | 「ている」をとる.....                   | 23 |
| 2.3.7.2 | 「である」をとる.....                   | 26 |
| 2.3.8   | 意味による分類.....                    | 27 |
| 2.3.8.1 | 動作・作用を表す動詞と状態を表す動詞.....         | 36 |
| 2.4     | 構文情報.....                       | 37 |
| 2.5     | 備考.....                         | 37 |
|         | 参考文献.....                       | 38 |

|        |                                 |    |
|--------|---------------------------------|----|
| 付録 A 1 | 基本フォーマット.....                   | 3  |
| 付録 A 2 | データ例.....                       | 41 |
| 付録 A 3 | テキスト形式辞書データとリスブ形式データの対応（例）..... | 46 |
| 付録 A 4 | 日本語基本辞書（VER.1）の深層格との違い.....     | 51 |
| 付録 A 5 | 作業の流れ.....                      | 52 |
| 付録 A 6 | 見出し語.....                       | 53 |

## 1 まえがき

本ドキュメントは、ATR音声翻訳通信研究所が音声言語研究用に作成した「日本語基本辞書 (Ver.2) 動詞編」<sup>1</sup>の内容の説明と使用法を記す。日本語基本辞書 (Ver.2) 動詞編は、ATR自動翻訳電話研究所が作成した日本語基本辞書 (Ver.1) [文献 17, 18] 動詞編に基づいて作られた。改訂に当たっては、各種の国語辞典やシソーラス、計算機用辞書など (ref.「参考文献」) を参照して、より汎用性が高く、わかりやすいものになるように努めた。本マニュアルは、その記載項目および判断基準を解説し、今後の拡張作業の参考になるよう留意している。

辞書本体データは /DB/SLDB/LNG/DICT/JVERB/verb-dic.txt および verb.dict にそれぞれテキストおよびリスプ形式で納められる。

## 2 辞書の内容

### 2.1 見出し語情報

#### 2.1.1 見出し語

当辞書の見出し数は501個である。ATR音声翻訳通信研究所の音声言語データベース (SLDB) の344会話<sup>2</sup>中出现する本動詞・サ変名詞665語のうち『例解新国語辞典 第四版 林四郎編集代表 三省堂』(以下『例解』とする)に「見出し」「副見出し」として立項のあるもの、サ変動詞は「する」の形を認めているものを見出し語とした(詳細は付録A5を参照されたい)。ただし、音声言語データベースの形態素解析作業で用いている辞書<sup>3</sup>(以下『ATR辞書』)において別項目となっている場合は『ATR辞書』にそそえ、その旨を備考欄に記す。

見出し語の動詞の終止形を記述する。いわゆるサ変動詞は補助動詞「する」を付加した形を記述する。

(例) ・尋ねる

【見出し語】 尋ねる ←『ATR辞書』の項目

【備考】 見出し:『例解』の「尋ねる・訪ねる\*\*」から分離

・訪ねる

【見出し語】 訪ねる ←『ATR辞書』の項目

【備考】 見出し:『例解』の「尋ねる・訪ねる\*\*」から分離

サ変動詞は『例解』の品詞欄にくするの形の表記のあるものをサ変動詞としている。

(例) 【見出し語】 オープンする ←「オープン」〈名・する〉

漢字の表記は常用漢字の「表内音訓」と「表外漢字(『例解』では ▼で表示)」は漢字表記とし、常用漢字の「表外音訓(『例解』では ▽で表示)」はひらがな表記とする。

(例) 【見出し語】 探す・捜す ←「探す・捜す」

【見出し語】 塞がる ←「▼塞がる」

【見出し語】 おる ←「▽居る」

【見出し語】 因る ←「因る・▽由る・▽依る」

<sup>1</sup> この辞書は、市販の辞書の語義を引用しているため、使用をATR音声翻訳通信研究所内部に限定するものとする。

<sup>2</sup> 当動詞辞書作成時に形態素解析が終了していた会話。

<sup>3</sup> このマニュアルの執筆時点ではドキュメント化されていない。

### 2.1.2 見出し語の読み

見出し語の読みをひらがなで記述する。

- (例) 【見出し語】 オープンする  
【見出し語の読み】 おーぷんする

### 2.1.3 見出し語の品詞

見出し語の品詞を記述する。動詞のほかに、連語は「連語」とし、格助詞を含む慣用的な表現は「複合動詞（慣用的表現）」とした。

(例) ・動詞

- 【見出し語】 探す・捜す  
【見出し語の読み】 さがす  
【見出しの品詞】 動詞\*\* ←『ATR 辞書』本動詞

・連語

- 【見出し語】 ございます  
【見出し語の読み】 ございます  
【見出しの品詞】 連語 ←『ATR 辞書』本動詞

・複合動詞

- 【見出し語】 気に入る  
【見出し語の読み】 きにいる  
【見出しの品詞】 複合動詞（慣用表現） ←『ATR 辞書』本動詞

サ変動詞は、形態素解析用辞書では「サ変名詞＋補助動詞」であるのに対して、本辞書では「動詞」としている。

- (例) 【見出し語】 オープンする  
【見出し語の読み】 おーぷんする  
【見出し語の品詞】 動詞\* ←『ATR 辞書』サ変名詞

品詞の後の「\*\*」「\*」は『例解』の最重要語、重要語を示している。

\*\* 最重要語

(『例解』では見出し語約48000語中の約1000語に付与)

\* 重要語

(『例解』では約5000語に付与)

### 2.1.4 見出し語の配列

見出し語は五十音順にソートした。

「ー」（音引き）は、前の語の母音に変換してソートしている。

(例) オーバーする → 「おおばあする」でソート

## 2.2 形態素情報

### 2.2.1 ATR 辞書（形態素解析用辞書）の見出し

「形態素解析用辞書」の見出し語にそろえる。したがって、本動詞では語幹の形（ただし、「来

る」「する」は活用形の形)を、「する」以外のサ変動詞では補助動詞「する」を除いた形を記述する。

#### 2.2.2 ATR辞書(形態素解析用辞書)の品詞

「形態素解析用辞書」の品詞のフィールドにそろえる。したがって、本動詞は「本動詞」と、サ変動詞は「サ変名詞」と記述する。

#### 2.2.3 ATR辞書(形態素解析用辞書)の活用型

活用型を記述する。「形態素解析用辞書」の活用型・活用行のフィールドにそろえる。

1. 五段活用 (例) 送る
2. 一段活用 (例) 教える
3. カ変 (例) 来る
4. サ変 (例) する
5. 特殊 (例) なさる いらっしゃる おっしゃる くださる くれる

#### 2.2.4 ATR辞書(形態素解析用辞書)の活用行

五段活用の動詞について、活用行を記述する。「形態素解析用辞書」の活用型・活用行のフィールドにそろえる。

1. ア行 (例) 口語五段活用には、なし
2. カ行 (例) 書く
3. ガ行 (例) 泳ぐ
4. サ行 (例) 話す
5. ザ行 (例) 口語五段活用には、なし
6. タ行 (例) 打つ
7. ダ行 (例) 口語五段活用には、なし
8. ナ行 (例) 死ぬ
9. ハ行 (例) 口語五段活用には、なし
10. バ行 (例) 飛ぶ
11. マ行 (例) 読む
12. ヤ行 (例) 口語五段活用には、なし
13. ラ行 (例) 走る
14. ワ行 (例) 言う

#### 2.2.5 ATR辞書(形態素解析用辞書)の語幹

本動詞の語幹を記述する。「形態素解析用辞書」の見出しのフィールドと同じ。  
ただし、「来る」「する」については語幹の形がないので記述しない。

#### 2.2.6 ATR辞書(形態素解析用辞書)の異表記

意味および読みが同じで表記の異なるものを記述する。「形態素解析用辞書」の異表記のフィールドにそろえる。

## 2.2.7 ATR辞書（形態素解析用辞書）の正規形（標準形）

正規形（本動詞は終止形、サ変動詞は補助動詞「する」を除いた形）を記述する。「形態素解析用辞書」の正規形のフィールドにそろえる。

## 2.2.8 音便・連濁

連用形に音便があれば、それを記述する。また、連濁（二つの語が結合して一語をつくるとき、後ろの語の語頭が濁音に変わる）があれば、それを記述する。

1. イ音便 （例）咲きて→咲いて
2. ウ音便 （例）問いて→問うて
3. 撥音便 （例）飛びて→飛んで
4. 促音便 （例）行きて→行って
5. 連濁 （例）下げる＋止（と）まる→下げ止（ど）まる

## 2.3 意味情報

### 2.3.1 語義

意味を記述する。基本的には『例解』の語義分類に従う。旅行会話によく見られる表現で、『例解』の語義に当てはまらない意味は、新しい語義として追加し、その典拠を備考欄に記す。ただし、あまり詳細な語義分けは行わないよう留意した。当辞書の語義総数は1227個である。

（例）

・通る

【意味情報 1/7】

《語義》一方から他方にいける状態になる。

【意味情報 2/7】

《語義》ある場所を一方から他方へ動いていく。通過する。

【意味情報 3/7】

《語義》なにかの中をつきぬけて、反対側に出る。

【意味情報 4/7】

《語義》合格とみとめられる。

【意味情報 5/7】

《語義》客として部屋の中に入る。

【意味情報 6/7】

《語義》みとめられる。ゆるされる。

【意味情報 7/7】

《語義》わかる。理解できる。意味が成り立つ。

・差し上げる

【意味情報 1/3】

《語義》手に持って、上にあげる。

【意味情報 2/3】

《語義》「あげる」の丁寧な言い方。

【意味情報 3/3】

《語義》「する」の丁寧な言い方。

←語義を追加

【備考】語義：旅行会話より追加（IRで作成） ←語義を追加した備考欄

### 2.3.2 シソーラス

意味分類の情報を記述する。下記の2書による分類を行う。

国分 『分類語彙表』（国立国語研究所）の 分類名称：コード

角分 『類語国語辞典』（角川書店、大野晋 浜西正人著）の分類名称コード

見出し語に対応する動詞、あるいはサ変名詞を索引を使って検索し、該当する箇所の分類名称と分類コードを付与する。複数になる場合は分類コードの数値の少ないものから記述する。

ただし、どの分類項目に入るか判断するのが難しい場合は、無理に分類するのではなく、何も記述しない。

付与する際には『類語国語辞典』の〔注〕欄の比喩的な意味や用法の記述も参考にして決定している。

（例）・通る

【意味情報 1/7】

《語義》一方から他方にいける状態になる。

《国分》通過：2.1524

《角分》貫通：213a

【意味情報 2/7】

《語義》ある場所を一方から他方へ動いていく。通過する。

《国分》通過：2.1524

《角分》通過：213

【意味情報 3/7】

《語義》なにかの中をつきぬけて、反対側に出る。

《国分》通過：2.1524

《角分》貫通：213a

【意味情報 4/7】

《語義》合格とみとめられる。

《国分》

《角分》及第：775a

・払う

【意味情報 4/4】

《語義》心や態度などをある方向にむける。

《国分》

《角分》支出：745b

←〔注〕「払う」は比喩的にある気持ちを表す意で、「敬意を払う」「注意を払う」などとも使う。

（〔注〕欄の記述）

該当箇所がなくとも、語釈からみて明らかに同義と判断される場合は、分類名称とコードの各々全体を（ ）でくくる。

（例）・付く

【意味情報 2/8】

《語義》なにかに、あるものがくわわる。



《国分》(増減) : (2.1580) ←「増減」中にある「付け加わる」等の語と同義と判断  
《角分》添加: 263a

『分類語彙表』の「用の類(動詞の仲間)」以外の、「体の類(名詞の仲間)」と「相の類(形容詞の仲間)」はコードの後に各々「体の類」「相の類」と記す。

(例) ・散歩する

【意味情報】

《語義》気晴らしや健康のために、家の外に出て気ままに歩くこと。

《国分》旅・行楽: 1.3371 (体の類)

### 2.3.3 自動詞、他動詞

自動詞と他動詞の区別をする。判断基準は次の通りである。

|     |           |                |
|-----|-----------|----------------|
| 自動詞 | ヲ格をとらない動詞 | (例) 死ぬ 流れる 晴れる |
| 他動詞 | ヲ格をとる動詞   | (例) 殴る 流す      |

ただし、ヲ格が出発点、通過点を示すものは自動詞とする。

(例) 家を 出る……出発点・離脱点  
予算を 出る……出発点・離脱点  
山を 歩く……通過点・移動の場所  
山を 登る……通過点・移動の場所  
タクシーが 市内を 流す……通過点・移動の場所  
海を 渡る……通過点・移動の場所  
祭の御輿が 町を 練る……通過点・移動の場所  
ボールが センターの頭上を 抜く……通過点  
峠を 越える……通過点  
30度を 越す……通過点

このヲ格の深層格は「出発点・離脱点」の場合は DEPT、「通過点・移動の場所」の場合は ROUT となる。→ (2.3.5.1 参照)

したがって、ヲ格の深層格が OBJE となる動詞は他動詞、それ以外のヲ格をとらない動詞、ヲ格が DEPT・ROUT となる動詞は自動詞となる。

### 2.3.4 用例

見出し語の動詞を含む文を記述する。

文用例のほかに、句用例ものせる。

用例中の表層格助詞(格マーカー)には、すべて〔 〕をつける。

用例のあとには、その典拠を次の記号で示す。

R: 『例解新国語辞典』(三省堂)の用例

S: 『新明解国語辞典』(三省堂)の用例

SD: 『詳解国語辞典』(旺文社)の用例

I: 『岩波国語辞典』(岩波書店)の用例

G:『学研国語大辞典』（学習研究社）の用例  
 K:『日本語基本動詞用法辞典』（大修館書店）の用例  
 IPAL:『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL』の文例  
 HIASK:『CD-HIASK 朝日新聞全文記事情報』  
 TR:ATRの旅行会話（344会話）の会話文  
 IR:IRで作成した用例  
 （上記の用例に、格を追加したものや語順等を入れ換えたものも  
 IRとした）

（例）・通る

【意味情報 2/7】

《語義》ある場所を一方から他方へ動いていく。通過する。

《用例》店の前〔を〕たくさんの人たち〔が〕通る R

小学生〔が〕道〔を〕通る K

アリの行列〔が〕通る K

車〔は〕道路の左側〔を〕通る K

貨物列車〔が〕線路〔を〕通る K

受付〔を〕通る K

大名行列〔が〕橋の上〔を〕通っている IPAL

ブロードウエー〔を〕通ってください TR

## 2.3.5 格

用例中に現れた補語を、必須格と任意格とにかかわらず、すべて記述する。  
 記述する項目は次の通りである。

格番号／表層格／深層格／名詞の意味素性／名詞句の例

（例）・差し上げる

【意味情報 2/3】

《語義》「あげる」の丁寧な言い方。

《格と名詞の意味素性》

格1／が は／AGEN／hum org／彼 会社

格2／を／OBJE／conc abs／ウイスキー 歳暮

格3／に／RECP／hum／先生

格4／から／AGEN／hum org／彼 会社

・賛成する

【意味情報】

《語義》人の意見や考え方に同意すること。

《格と名詞の意味素性》

格1／が は／AGEN／hum org／彼 会社

格2／に には／OBJE／act abs hum org -／

結婚 提案 彼女 団体 外国にいくこと

用例中に出現する格助詞が、意味的に他の格助詞と置換可能な場合は、用例に出現しない格助詞であっても、その格を記述している。

(例) 用例中にへ格は出現しないが、二格と言い替えられるため、「格4」として記している。

・ 移る

【意味情報 7/7】

《語義》 変わっていく。

《用例》 世〔が〕 移る R

季節〔が〕 移る R

季節〔が〕 春〔から〕 夏〔に〕 移る k

《格と名詞の意味素性》

格1 / が / OBJE / time / 季節 世

格2 / から / SOUR / time / 春

格3 / に / RESL / time / 夏

格4 / へ / RESL / time / 夏

### 2.3.5.1 深層格

深層格として次のもののみを認めている (Ver.1 との違いについては付録参照)。

| [深層格] | [定義]        | [例]                         |
|-------|-------------|-----------------------------|
| AGEN  | 有生・無生の行為主体  | 私が 会議に申し込む<br>計算機が 文を解析する   |
| EXPR  | 精神的事象の体験者   | 母が 悲しんだ                     |
|       | 被害を受ける者     | 弘が 金をなくした                   |
| OBJE  | 変化・移動・行為の対象 | 申込用紙を 送る                    |
|       | 状態動詞の主体     | 会議が ある                      |
| SOUR  | 変化の始状態      | 父が 癌から 快復した<br>信号が 赤から 変わった |
| RESL  | 変化の結果       | 委員長に なる<br>信号が 赤へ 変わった      |
| GOAL  | 行為が向かうもの    | 木に ぶつかる                     |
| SEPR  | 分離の作用の相手    | 危険から 身を避ける<br>水から 酸素を分離する   |
| MUTL  | 相互動詞の相手     | 論敵と 対立する                    |
| RECP  | 所有移動における受け手 | 登録用紙を 事務局に 送る               |
| ORIG  | 所有移動における与え手 | 登録用紙を 事務局から 送る              |
| CONT  | 思考・発言などの内容  | 妻を同伴しようと思う                  |
| ROUT  | 移動における通過経路  | 公園を 通る<br>橋を 渡る             |
| MANN  | 様態          | 厳しい態度で 臨む                   |
| INST  | 方法・手段       | ワープロで 書く                    |
| MATR  | 材料・構成要素     | 葡萄から ワインを作る<br>3章から なる論文    |
| CAUS  | 原因・理由       | 癌で 死ぬ                       |

|       |       |               |
|-------|-------|---------------|
| PURP  | 目的    | 買い物に 行く       |
| COND  | 条件    | 無料で 招待する      |
| LOCT  | 場所    | 登録用紙に 記入する    |
|       |       | 彼の意見には 偏見がある  |
| DEPT  | 起点    | 京都駅から 出発する    |
|       |       | この風習は 仏教から きた |
| DEST  | 終点    | そちらの住所に 送る    |
| TLOC  | 時点    | 会議の際に 発表する    |
| TDEP  | 時間的起点 | 9時から 始まる      |
| TDES  | 時間的終点 | 月末までに 払う      |
| ROLE  | 役割    | 講演者として 参加する   |
| ACCM  | 随伴者   | 友達と 映画に行く     |
| RANG  | 範囲規定  | 内容について 質問する   |
| COMP  | 比較    | ビールより ワインがいい  |
| IDEN  | 同一    | 彼の作品が 金賞に なった |
| ARG-n | 曖昧な関係 | (今回の調査対象にはなし) |

深層格ではないが、動詞と密接なつながりをもつ副詞的な表現に対しては、用例の該当する箇所の後に〔副詞的表現〕と記す。

(例) ・取り扱う

【意味情報 2/5】

《語義》道具や機械などを、使用したり操作したりする。

《用例》乱暴に〔副詞的表現〕取り扱う R

彼女〔は〕商品〔を〕丁寧に〔副詞的表現〕取扱っている

IPAL

本〔を〕乱暴に〔副詞的表現〕取扱ってはいけない IPAL

表層格と深層格の対応、および決定基準は次の通りである。

#### (1) 方格

AGEN：有生または無生の行為主体で、出来事・事象を引き起こす主体。

(例) 弘が勉強する

犬が走る

車が走る

太陽が地球を照らす

デモが予想外の展開を見せた

孤立感が私の心を襲った

EXPR：精神的事象の体験者、あるいは、被害を受ける者。

(例) 母が悲しむ

先生が蛇にびっくりする

弘が金をなくした

太郎が息子の誕生を喜ぶ

彼がルーベンスの絵に感動した

：直接間接に利害関係、影響を受ける有情の格で助動詞の類と共起する主体（被害の受け身の被害者も含む）。

（例）彼女が（雨に降ら）れた  
弘が（スキーに行き）たがる／たい

OBJE：存在・状態の対象。

（例）国際会議がある  
物価が下がる  
天気がよい  
選挙に至るまでが大変だ

：可能動詞の「が」、総主文「～は～が～」の「が」。

（例）彼は英語が話せる（可能動詞）  
彼は音感が優れている（総主文）

## （2）ヲ格

OBJE：動作・作用・創造・授受・精神活動・経験などの対象。

（例）男が弘を殴った  
計算機が文を解析する  
政府が計画を変更する

：時間の意味特徴を含む項。

（例）苦しかった3時間を泳ぎきった  
楽しかった3年を過ごす

ROUT：移動における通過場所、通過経路。

（例）公園を歩く  
橋を渡る  
国境を越える  
長い距離を走る

：抽象的な経過点も含む。

（例）昨年の実績を超える  
針が3時を過ぎた  
社員が100名を超えた  
仕事は能力を超える

DEPT：移動の起点（「から」と置換可能）。

（例）東京を去る

：抽象的な起点も含む

（例）職を離れる

## （3）ニ格

AGEN：受け身の「ニ格」で、有生・無生の行為主体を表す。

（例）兄は弟に殺された（←弟は兄を殺した）  
良心の呵責にむちうたれる（←良心の呵責が私をむちうつ）

雑事に追われる (←雑事が私を追う)  
地球は太陽に照らされる (←太陽が地球を照らす)  
美しさに心が奪われる (←美しさが心を奪う)

EXPR: 精神的事象の体験者。

(例) 私にはそう見える  
彼に一抹の不安があった  
彼には期待があった

: 直接間接に利害関係、影響を受ける有情の格で助動詞の類と共起する主体。

(例) 私は、弟に (犬を散歩さ) せる  
私は、犬に (散歩さ) せる

: 能力の所有者。

(例) 彼に英語がわかる  
私にも写せます

OBJE: 対面動作動詞のとり「二格」(「に対して」「に向かって」と置換可能)。

(例) 神様に合格を祈る  
消費税に反対する  
弘が陽子に憧れる  
弘が陽子に話しかける  
都市が迫害に耐えた  
選手が記録に挑む  
刑事が事件に着手する  
乗組員がSOSに応答する  
苦勞に耐える  
言語に習熟する  
子供は期待に応えた  
効率が思想に優先する  
弘が弾に当たった  
道路は川に面している  
弘が困難に直面する

(注) 相互動作動詞の GOAL も「に対して」と置換可能だが、この場合はさらに「と」との置換ができる。

移動動作の場合は「へ」との置換ができるが、対面動作の場合は置換できない。

対面動作には、次のようなものがある。

憧れる 飽きる お辞儀する 干渉する 恐縮する  
協力する 逆らう そむく たてつく 立ち向かう  
抵抗する 仕える なつく おびえる 拍手する  
作用する となる 話しかける ほほえみかける

GOAL: 相互動作動詞 (二者が互いに何かをする) がとり「二格」(「と」と置換可能)。

(例) 友達に会う

彼が彼女に交代する  
敵に対峙している  
自動車が木に衝突する

：数量の増減や、値の上下などによる変化を表す動詞がとる「二格」。

(例) 60キロに増える、増やす、減る  
3万円に上げる、上がる、下げる  
5メートルに縮む、縮める、延ばす、伸びる  
水を42度に温める、冷やす  
2つに割れた、分裂した  
×大企業に発展した、生まれ変わった →RESL  
×黄色に染まる →RESL

：選択、決定の動詞がとる「二格」。

(例) IOCは次のオリンピック開催地をソウルに決めた  
×彼を大使に起用する →(～として) ROLE  
×彼を職員に採用する →(～として) ROLE  
×レーガンを大統領に選ぶ →(～として) ROLE

：接着動詞(あるものに何かが接着することを表す動詞)がとる「二格」(「～から～に」の形にならない)。

(例) 商品に値段をつける  
問題に手をつける  
弾丸に鋼鉄をかぶせた  
国際会議に招待する  
晩ご飯に招待する  
肩に手を置く

RANG：範囲・関係を規定する(「(という点)について」「(という点)に関して」と置換可能)。

(例) 日本は天然資源に乏しい  
洋子は音楽の才能に富む  
彼女はフランス語に強い  
英語に自信がない  
×日本に資源がない →LOCT  
×彼の言葉に刺がある →LOCT

RECP：授受・伝達などを表す動詞で、物・情報・権利などの移動における受け手(「へ」と置換可能)。

(例) 事務局に金を送る  
友達に用件を伝言する  
私が陽子に真実を教える  
息子に金を貸す  
銀行に金を預ける  
陽子に出張を命じる  
組合が会社に賃上げを要求した

ORIG：授受・伝達などを表す動詞で、物・情報・権利などの移動における与え手（「から」と置換可能）。

（例）インストラクターに習う  
親に金を借りる

RESL：変化動詞と共起して状態変化の終状態・結果を表す。

（例）父が癌になった  
芋虫が蛾になる  
弘が病気になる  
壁を緑に塗る  
大企業に発展した、生まれ変わった  
×水を43度に温める →数量変化 GOAL  
×部屋が静かになる →形容名詞+助動詞  
×暴徒が平静になる →形容名詞+助動詞

CAUS：原因・理由・動機を示す格（「によって」「で」と置換可能）。

（例）人間関係に悩む  
父の死の知らせに驚く  
仕事に気が紛れる  
×スポーツに飽きる →OBJE  
×生活に疲れる →OBJE

PURP：目的や用途を示す（「のために」と置換可能）。

（例）買い物に出かける  
翻訳に英英辞典を使う  
彼は魚を釣りに行く  
防寒に適する  
建設に採用する  
通勤に備える  
運動に使う

LOCT：存在・状態・動作の行われる場所で、抽象的な場所も含む。

（例）部屋にいる  
登録料に食費が含まれる  
ノートに字を書く  
ホテルに泊まる

DEST：移動の終点を示す格で、抽象的な到達点も含む。

（例）ローマに到着する  
山に登る  
角界の最高位に昇る  
大学に入る  
社交界にデビューする



TLOC：動作・状態の生起する時点を示す。

- (例) 会社が6時に終わる  
会社が6月に潰れた  
1年以内に完成する  
8時に始まる  
最初に話す

MANN：動作・変化などの生起する様態を示す。

- (例) カードをアルファベット順に並べる  
2年ごとに交代する  
1行置きに読む  
×無理に我慢する →形容名詞＋助動詞  
×静かに歩く →形容名詞＋助動詞

ROLE：役割・資格を表す（「として」と置換可能）。

- (例) 私の代わりに助手が行く  
お年玉に1万円あげる  
休憩場所にわが家を貸す  
弘を職員に採用する  
クリントンを大統領に選ぶ

IDEN：断定の助動詞の「だ」「です」と同じ意味になる。

- (例) 彼の作品が金賞になった

#### (4) テ格

AGEN：有生・無生の行為主体（「が」と置換可能）。

- (例) 警察で調べた  
私のほうでなんとかいたします

INST：動作の道具・手段を表す格で、抽象的な方法・手段も含む（「により」「によって」「を使って」と置換可能）。

- (例) ワードプロで書く  
英語で話す  
パソコンで通信する  
飲み屋で生計を立てる  
×使い込みで解雇する →CAUS

MATR：材料・原料または構成要素を示す（「から」と置換可能）。

- (例) 砂で城を作る  
葡萄でワインを作る  
審議会は5人となる

CAUS：原因・理由・動機を示す格（「によって」と置換可能）。

- （例）癌で死ぬ  
病気で悩む  
雪で列車が遅れる  
地震で多くの人が死ぬ  
警察の調べで真相がわかった

COND：命題が成り立つための条件を示す。

- （例）無料で招待する  
自分で作る  
3日で仕上げる  
測定精度は焦点深度で決まる  
1枚100円で買う  
家族で旅行に行く

LOCT：具体的・抽象的な場所を示す。

- （例）レストランで食事する  
最終審査ではねられる  
学問で彼にまさる者はいない  
京都でこの店が一番高い  
今日は、高速道路で事故が多い

TLOC：動作・状態の生起する時点を表す。

- （例）現在でも月旅行が可能だ  
彼は35歳で死んだ  
この辺で考え直してみる  
×2時間で到着する →COND  
×3日で仕上げる →COND

MANN：動作・変化・状態の生起する様態を表す。

- （例）きびしい態度で臨む

#### （5）カラ格

AGEN：有生・無生の行為主体。

- （例）私から彼に手紙を書く  
私は陽子から絶交された

SEPR：分離・遠隔などの作用の相手を示す。

- （例）水から酸素を分離する  
危険から身を守る  
国連から脱退する  
現実から逃避する  
人から命を奪う  
牛乳から脂肪を分離する

肩から力を抜く  
内容から注意をそらす  
時代から取り残される

SOUR：状態変化の始めの状態を示す。

(例) 父が癌から快復した  
信号が赤から青に変わった  
助手から講師になる  
ラテン語から訳す  
荒廃から立ち直る

MATR：材料・原料または構成要素を示す。

(例) 葡萄からワインを作る  
3章からなる論文

CAUS：原因・理由・動機を示す（「によって」と置換可能）。

(例) 不注意から事故が起きる  
このデータからわかった

ORIG：授受・伝達などを表す動詞で、物・情報・権利などの移動における与え手を示す。

(例) 銀行から金を借りる  
友達から教わる  
×大蔵省から予算をぶんどる →SEPR

DEPT：移動の出発点を示し、抽象的な起点も含む。

(例) 田舎から出てくる  
高校から大学へ進む  
東京から遠ざかる  
窓から見る  
離乳食は重湯から始まる  
移動に2時間から3時間かかる  
費用は20ドルから30ドルかかる

TDEP：時の起点を示す。

(例) 夏休みは7月から始まる  
会議は10時から始まる  
×8時に始まる →TLOC

#### (6) ヨリ格

AGEN：有生・無生の行為主体を示す（「が」「から」と置換可能）。

(例) 私より電話しておきます

MATR：材料・原料・構成要素を示す（「から」と置換可能）。

(例) 葡萄よりワインを作る

アメリカ人とドイツ人より成る探検隊

ORIG：授受・伝達を示す動詞で、物・情報・権利の移動における与え手（「から」）と置換可能）。

（例）恋人より手紙が来た  
先生より教わる  
親より借りる

DEPT：移動の出発点を示す。抽象的な起点も含む（「から」と置換可能）。

（例）超新星より電波が届く

TDEP：時の起点を示す（「から」と置換可能）。

（例）会議は9時より始まる

COMP：比較の基準となる対象を示す。

（例）ビールよりワインを好む

（7）へ格

RESL：状態変化の終りの状態を示す。

（例）信号が青へ変わった  
ドイツ語へ翻訳する

RECP：授受・伝達の動詞で、物・情報・権利などの移動における受け手を示す（「に」と置換可能）。

（例）洋子へ手紙を出す  
私が陽子へ真実を教える  
銀行へ預ける  
組合が会社へ賃上げを要求した

DEST：移動の方向・到達点を示す。抽象的な到達点も含む。

（例）家へ帰る  
月へ飛行する

LOCT：存在・状態・動作の生起する場所で、抽象的な場所も含む。

（例）先生は黒板へ名前を書いた  
作品へ手を加える

（注）DEST との区別は、動詞が方向性を持たないことである。また、そのために「カラ格」と共起しない。

（8）マデ格

DEST：移動の終点で、抽象的な到達点も含む。

（例）駅まで迎えに行く  
餓死寸前までいった

TDES：時の終点を示す。

- (例) 会議は9時まで続いた  
彼が来るまで待とう  
35歳までに家を買う

(9) ト格

RESL：状態変化の終りの状態を示す。

- (例) 夜に雨が雪となった

CONT：思考・発言の内容を示す。

- (例) 彼はきっと行くと言った  
妻を同伴しようと思う

：命名動詞（呼ぶ、名付ける、称するなど）のト格。

- (例) 犬をポチと呼ぶ  
私は名前をジョンと言います

MUTL：相互動詞の相手を示す。

- (例) 父と口論する  
友人と会う  
古いタイヤを新しいのと換える  
彼が彼女と交代する  
日曜が祭日と重なる  
敵と対峙している

ACCM：行為の随伴者で「と共に」「と一緒に」の意味を示す。

- (例) 友達と映画に行く

IDEN：断定の助動詞の「だ」「です」と同じ意味になる。

- (例) 彼の作品が金賞となった

(10) ニヨッテ

AGEN：有生・無生の行為主体。

- (例) この絵はピカソによって描かれた

INST：動作の道具・手段を示す。抽象的な手段・方法も含む。

- (例) 縄梯子によって救出する

CAUS：原因・理由を示す。

- (例) 火事によって財産を失う

COND：条件を示す。

- (例) 薬効は人によって違う

(11) ラモッテ

INST: 動作の道具・手段を示す。抽象的な手段・方法も含む。

(例) 書面をもって答える

CAUS: 原因・理由を示す。

(例) 老齢をもって引退する

TLLOC: 時点を示す。

(例) 本日をもって締め切る

MANN: 動作・状態が生起する様態を示す。

(例) 好意をもって迎える

(12) デモッテ

INST: 動作の道具・手段を示す。抽象的な手段・方法も含む。

(例) 書面でもって答える

(13) ニトッテ

GOAL: 何らかの基準となるものを示す。

(例) それは私にとって存在しないと同じだ

(14) ニ対シテ

GOAL: 対面動作の向かう相手。

(例) 政治に対して関心を持つ

(15) ニオイテ

LOCT: 具体的・抽象的な場所を示す。

(例) 会議は大ホールにおいて行われる

(16) トシテ

ROLE: 役割・資格を示す。

(例) 講演者として参加する

(17) ニツイテ

RANG: 範囲・関係を規定する。

(例) 内容について質問する

日本は天然資源については乏しい

(18) ニ関シテ

RANG：範囲・関係を規定する。

(例) 内容に関して質問する

日本は天然資源に関しては乏しい

(19) ノタメニ

PURP：用途や目的を示す。

(例) 客のために料理を用意する

(20) ノ際ニ

TLOC：動作・状態の生起する時点を示す。

(例) 予約の際に電話番号を聞く

(21) カ

CONT：思考・発言の内容を示す。

(例) 電話番号が何番だったか調べる

(22) ノカ

CONT：思考・発言の内容を示す。

(例) なぜあんなことを言ったのか調べる

(23) カドウカ

CONT：思考・発言の内容を示す。

(例) うまくいったかどうか調べる

(24) カト

CONT：思考・発言の内容を示す。

(例) 彼は元気かと思う

## 2.3.5.2 名詞の意味素性

名詞の意味素性として、次のものを認めている。

| [意味素性] | [説明] | [例]                                   |
|--------|------|---------------------------------------|
| anim   | 有生   | 犬 鳥 とかげ 魚                             |
| hum    | 人間   | 彼 子供 会員 社長                            |
| org    | 組織   | 会社 大学 警察 調査団                          |
| conc   | 具体物  | 洗濯機 鞆 鉛筆 楽器 ビスケット<br>桜 顔 手 涙 風 台風     |
| abs    | 抽象物  | 幸福 心 健康 病気 怒り 名前<br>質問 世間 戦争 学位 英語 資金 |
| event  | 出来事  | 会議 レセプション 演奏会                         |
| act    | 行為   | 参加 講演 出張                              |
| state  | 状態   | 必要 状況 コードのねじれ                         |
| loc    | 場所   | 東京 峠 村 海 空 部屋 倉庫                      |
| time   | 時間   | 明日 来年 春 3月 2時                         |
| num    | 数量   | 十 全部                                  |

素性欄には、動詞との関連でその名詞がもつ代表的な素性のみを記述する。

例えば「会社」の場合には、以下になる。

会社を 設立する ←組織：org  
 会社を 建てる ←具体物：conc  
 会社へ 行く ←場所：loc

実際のデータのフォーマット

(例) 《格と名詞の意味素性》

格1 / が は / AGEN / hum org / 彼 会社  
 格2 / を / OBJE / conc abs / ウイスキー 歳暮

素性欄の - は、文や節などになる場合に記す。

(例) 《格と名詞の意味素性》

格2 / に には / OBJE / - / 外国に行くこと

素性欄の // は、その動詞がとる名詞の制限が緩やかなために、意味素性を記述できないものを示す。

(例) 《格と名詞の意味素性》

格1 / が は / OBJE // 彼 会社 出発 会議 開催地  
 試験科目

格2 / に / IDEN // 課長 大手 明日 9時 延期 名古屋 英語 廃止  
 格3 / と / IDEN // 課長 大手 明日 9時 延期 名古屋 英語 廃止



### 2.3.6 ヴォイス

見出し語の動詞が、直接受身、間接受身、使役、可能の表現形式になるかどうかについて記述する。

#### 受身の形式

|      |         |           |
|------|---------|-----------|
| 五段活用 | 未然形+れる  | (例) 殴られる  |
| 一段活用 | 未然形+られる | (例) 教えられる |
| サ変活用 | 未然形+れる  | (例) される   |
| カ変活用 | 未然形+られる | (例) 来られる  |

#### 使役の形式

|      |         |           |
|------|---------|-----------|
| 五段活用 | 未然形+せる  | (例) 殴らせる  |
| 一段活用 | 未然形+させる | (例) 教えさせる |
| サ変活用 | 未然形+せる  | (例) させる   |
| カ変活用 | 未然形+させる | (例) 来させる  |

#### 可能の形式

|      |          |           |
|------|----------|-----------|
| 五段活用 | 未然形+れる   | (例) 行かれる  |
|      | 子音語幹+e+る | (例) 行ける   |
| 一段活用 | 未然形+られる  | (例) 見られる  |
|      | 未然形+れる   | (例) 見れる   |
| サ変活用 | サ変名詞+できる | (例) 理解できる |
| カ変活用 | 未然形+られる  | (例) 来られる  |
|      | 未然形+れる   | (例) 来れる   |

(注) いわゆる「ラ抜き言葉（見れる、来れる、etc.）」は、現代では普通の語法であり、特に会話ではしばしば現れるので、認めるべきだと思われる。

#### 2.3.6.1 受身

##### 直接受身

能動文に現れる非ガ格の必須成分をガ格に、ガ格の必須成分を非ガ格にした受身文で、他者から何らかの動作・作用を直接的に受けることを表す。

なお、自発は受身に含めない。

- (例) 花子は太郎を殴った→太郎が花子に殴られた  
兄が弟を助けた→弟が兄に助けられた  
彼が彼女に書類を渡した→彼女は彼から書類を渡された  
→書類が彼から彼女に渡された  
×学生時代のことが懐かしく思われる →自発

##### 間接受身

能動文に現れない第三者をガ格とした受身文で、他者からの動作・作用を間接的に受けることを表す。「被害の受身」とも「(はた) 迷惑の受身」とも言う。

- (例) 彼は9歳の時両親に死なれた  
雨に降られて困った

(注) 一般に、「働きかけ」「創作」「対面動作」「授与」を表す動詞は直接受身になりうる。

(例) 犯人は現行犯で捕まえられた  
源氏物語は紫式部によって書かれた  
彼は息子にそむかれた  
彼は知事から感謝状を贈られた

一般に、「相互動作」「移動」「変化」「受取」を表す動詞は直接受身になりえず、間接受身になる。

(例) 子供たちは両親に離婚された  
彼は恋人に去られた  
恋人に心変わりされた  
私はねらっていた賞金を彼にもらわれてしまった

一般に、「感情」「感覚」「思考」「発話」を表す動詞は、能動的な心の動きを表す場合は直接受身になりうるが、そうでない場合は直接受身になりえない。

(例) 彼女は両親に愛されている (直接)  
隠れているところを見つけられた (直接)  
妻に疑われる (直接)  
先生にどなられた (直接)  
子供に驚かれた (間接)

#### 2.3.6.2 使役

人に何かをさせることを表す形で、元の文のガ格を二格またはヲ格にし、使役主体を新たにガ格として加える。

(例) 太郎は花子と結婚した→父は太郎に (を) 花子と結婚させた  
生徒達が本を読んだ→先生は生徒達に本を読ませた

#### 2.3.6.3 可能

前記の可能形で、可能の意味を表す。元の文のガ格が二格に、ヲ格がガ格になる。

(例) 私にも写真が写せる

#### 2.3.7 アスペクト

アスペクトとは、動詞の表す動作を、その動作が時間の経過とともにどのような局面を表すかといった点に注目してとらえたものである。本辞書では、アスペクト要素の代表的な形式である「ている」「である」が後続したときに、語義毎にどのような意味を表すかを記述する。

##### 2.3.7.1 「ている」をとる

動きの最中：動作が始まって終わるまでの、動きの最中の状態にあることを表す。時間的順序は一般に、テイル形→タ形 となる。

(例) 子供たちがテレビゲームで遊んでいる  
彼は小説を書いている  
雨が降っている

・旅行会話から

今ニューヨークシティホテルに滞在しています

東京ホテルに宿泊しています

今お借りしているお部屋をもう一泊延長したいんですが、お願いできませんか

心的状態の持続：主体がある心的な状態にあることを表す。

時間的順序は一般に、テイル形→タ形 となる。

(例) 父親が娘の結婚を喜んでいる

・旅行会話から

できれば同じ階の部屋を予約したいと思っています

結果の残存：主体が動きの結果生じた新しい状態にあることを表す。

言い替えれば、眼前の事態、あるいは今現在の状態を過去に起こったことの痕跡として表現しており、眼前の情景、現状をそのまま写したものであるといえる。

時間的順序は一般に、タ形→テイル形 となる。

(例) 犬が死んでいる

財布が落ちている

家が倒れている

・旅行会話から

私、アメリカから妻と二人で旅行に来ているんですが、車を借りたいんです

年は五才で、赤のトレーナーを着てブルージーンズをはいています

あいにく、現在のところ、ツインのお部屋が、すべてふさがっています

はい、ツインのお部屋、2部屋ほど空いています

あいにくなんですが、八日九日とも、ツインルームはもう満室となっています

経験・完了：動きの結果が間接的に主体に残っていることを表す。

結果の残存との違いは、結果の残存が現状を表すのに対して、経験・完了のほうは過去の事実を、今、改めて確認しており、回顧的である点にある。

時間的順序は一般に、タ形→テイル形 となる。

(例) 芥川龍之介は昭和2年7月24日に自宅で死んでいる

彼は先週財布を無くしている

コロンブスはアメリカ大陸を発見している

・旅行会話から

それで京都には、古い着物を売するような市が立つと聞いています

実は今まですでに2回、ツアーで京都観光に行っているんですが、主に日本の建築物に興味があるんです

あした予約しています、鈴木直子と申します

単純状態：動きを含まず、ただ単に主体がある状態にあることを表す。

(例) ミネラルを含んでいる ←「ミネラルを含む」と意味は同じ

道がくねくねと曲がっている

あの男は変わっている

×京都の景観がすっかり変わっている →結果の残存  
(今の京都の景色が、以前の京都の様子と違う)

・旅行会話から

おふろは付いています

まず、玄関から、キッチン、バス、トイレと続いています

はい、こちらのホテルがごぞいますのは、大変ミッドタウンの中でもにぎやかな界限  
で、観光ホテルが並んでいるところでございます

ハーフムーンクルーズのコースは、所要時間が五時間半で、ディナーとダンスが含ま  
れています

いいえ、朝食は別料金になっています

デラックスツインの場合、一泊2百ドルとなっています

2万1千円の方が、多少広めになっています

チェックインは午後一時からとなっています

それから三条駅から延暦寺まではバスが直通となっています

開場は7時になっています

はい、わたくしどものお店は八坂神社の裏になっています

アスペクトは旅行会話に見るように文脈に依存するものであるが、本辞書では、基本的に動作の  
反復や完了を表す副詞句を除き、動作の主体を単数として、その動詞の表すアスペクトを判断して  
いる。

(例) 母は6時に起きている →結果の残存

×母は 毎日 6時に起きている

(「毎日」を加えると動作の反復となり、習慣を表す。動作は継続しており、動  
きの最中の一種とも解釈できる)

犬が死んでいる →結果の残存

×アフリカでは密猟によって毎日たくさんの 象が死んでいる

(複数の主体による動作の連続となり、事態の反復を表す。個々の動作は連続し  
ており、動きの最中の一種とも解釈できる)

彼は小説を書いている →動きの最中

×彼はたくさんの小説を書いている (経験・完了)

しかし、動詞によっては語義に、動作の反復や、主体が複数の意を含むこともある。

(例) ・回す

【意味情報 4/6】

《語義》ものを順におくりわたす。

《用例》つぎ〔に〕回す R

集まった人々〔は〕杯〔を〕回して酒を飲んだ K

回覧板〔を〕隣の家〔に〕回す K

書類〔を〕係の者〔に〕回す K

歌を歌う順番〔を〕次の人〔に〕回す K

彼〔は〕隣の家〔に〕回覧〔を〕回した IPAL

親会社〔から〕子会社〔に〕仕事〔を〕回した IPAL

《アスペクト》1. ている ○

2. [動きの最中] ○
3. [心的状態の持続]
4. [結果の残存]
5. [経験・完了] ○
6. [単純状態]

また、動詞によっては同一語義の中に、テイル形になるものと、テイル形にならないものが混在することがある。

(例) ・行く

【意味情報 10/10】

《語義》一定の時間が過ぎる。

《用例》北国の短い夏〔は〕行ってしまった K

あの子はもう年〔が〕行っている K

3年の月日〔が〕行った IPAL

《アスペクト》1. ている ○

2. [動きの最中]
3. [心的状態の持続]
4. [結果の残存] ○
5. [経験・完了]
6. [単純状態]
7. である
8. [結果の持続]
9. [有効性の持続]

【備考】アスペクト：ている；○は「あの子はもう年が行っている」のみ

## 2.3.7.2 「である」をとる

結果の持続：対象に変化を生ずる動きが終わった後に、対象が新しい状態にあることを表す。

(例) 自転車が捨ててある  
壁に絵が掛けてある

・旅行会話から

串に刺してありますので、手で食べられます

茶色の革のブリーフケースで名札は付いてませんけれども、上にイニシャルが書いてあります

それから、フロントに簡単な観光地図が用意してありますので、お出かけになる前に、お渡しすることもできます

有効性の持続：行為の影響が、対象の上に有効性をもって存続していることを表す。

(例) その件については十分に調べてある  
彼にはもうそのことを話してあります

・旅行会話から

もしもし、きょう予約してある田中弘子といいますが

### 2.3.8 意味による分類

動詞の意味を、次の分類に従って記述する。

この分類は、動詞の意味をその動詞の取る基本的な格助詞の組み合わせパターンに注目して分類している。

実際に分類する際には、まず、その動詞の語義と用例による意味に着目し、次にその意味分類の取る格パターンと合っているかどうかを検討して決定している。

(例) ・届く

【意味情報 1/4】

《語義》のばしたものが達する。

《用例》手〔が〕届く R

天井〔に〕手〔が〕届く K

声〔が〕後ろ〔まで〕届く K

光〔が〕月〔へ〕届く K

《格と名詞の意味素性》

格1 / が / OBJE / conc abs / 手 光 ← 基本的な格パターン

格2 / に / DEST / loc / 天井 月 「XガYニ〜スル」

格3 / まで / DEST / loc / 天井 月

格4 / へ / DEST / loc / 天井 月

《意味分類》◆動作・作用

◇二者の関係

1. 働きかけ
2. 創る行為 (創作)
3. 対面動作
4. 相互動作

◇移動・変化

5. 移動 ○ ← 「5. 移動 ・ C」に該当する
6. 変化 (下記を参照)
7. 授受

◇感情・感覚・思考

8. 感情
9. 感覚
10. 思考
11. 発話行為

◇その他

12. その他の動作・作用

◆状態

13. 生起
14. 存在
15. 所有
16. 関係認定
17. その他の状態

(注) 「XガYニ〜スル」という基本的な格パターンをとるものは、動作・作用を表す動詞では以下の5つがある。

3. 対面動作 X (仕手) ガ Y (相手) ニ ~スル  
 5. 移動 ・C「入る、着く；泊まる」類  
     X (仕手) ガ Y (到達点) ニ ~スル  
     ・D「行く、来る、帰る、戻る」  
     X (仕手) ガ Y (到達点・目的地) ニ ~スル  
 6. 変化 ・A「なる」類  
     X (主体) ガ Y (結果の状態) ニ ~スル  
 8. 感情 ・A 一時的な気の動き  
     X (感情主) ガ Y (誘因) ニ ~スル  
     ・C 対象に対する態度  
     X (仕手) ガ Y (相手) ニ ~スル  
 11. 発話行為 ・A 対象に対する態度  
     X (仕手) ガ Y (相手) ニ ~スル

また、意味分類は語義ごとに必ず付与しているが、動詞によっては、複数の値を取ることがある。  
 (例)

3. 対面動作      11. 発話行為   ←太郎が花子に 話しかける  
 1. 働きかけ      8. 感情           ←太郎は花子を 尊敬している

#### ●動作・作用

○二者（主体と対象）の関係

##### [1] 働きかけ

主体が対象に向かって働きかける動作・作用を表す。

X (仕手(主体)) ガ Y (客体) ヲ ~スル

原則として直接受身になる

##### ・A 物理的な働きかけ

直接受身では、Yガ Xニ ~サレル となる

(例) 殺す 殴る 誘拐する 誘う ひっぱる 逮捕する 荒らす 壊す 落  
       とす 割る 切る 突く 召集する 食べる 飲む 読む

何物かが社長を誘拐した

猪が畑を荒らす

突風が看板を吹き飛ばした

##### ・B ある対象を目指しての感覚・感情の動き

直接受身では、Yガ Xカラ/ニ ~サレル となる

(例) 見る 聞く 嗅ぐ 嗅ぎつける 感じる 照らす 呼ぶ ほめる 叱る  
       呼びつける 愛する 憎む 好く 好む 嫌う 惜しむ 尊敬する 軽  
       蔑する

花子が太郎をじっと見つめた

右翼が彼を狙っている

##### [2] 創る行為（創作）

動作の結果これまでにないものが出現する、あるいは、あるものを創り出す行為を表す。

X (仕手(主体)) ガ Y (客体) ヲ ~ スル

直接受身では、Yガ Xニヨッテ ～サレル となる

(例) 作る (詩を) 書く (穴を) 掘る (仏像を) 彫る (写真を) 写す (ラ  
ジオを) 組み立てる (湯を) 沸かす (家を) 建てる (産業を) 興す

紫式部が源氏物語を書いた

義政は銀閣を建てた

### [3] 対面動作

対象に対する態度を表す。

X (仕手) ガ Y (相手) ニ ～スル

(注) Yが場所性の名詞である場合は、後述の「移動」とする。

移動の場合「Yニ」は「Yへ」で置き換えられるが、対面の場合は置  
き換えることができない。

直接受身：「Yガ Xニ ～サレル」

(例) 賛成する 同意する 味方する 挑戦する 背く 反対する 逆らう  
敵対する かみつ くつつ しがみつ なつく とびかかる  
つかみかかる しなだれかかる

犬が私にかみついた

直接受身：「Yガ Xカラ/ニ ～サレル」

(例) 恋する 惚れる 甘える あこがれる たよるとなる 話しかける ほ  
ほえみかける

直接受身にならない：Y (相手) を主体として取り立てたいときは、XとYを入  
れ換える

(例) 会う\* 当たる\* ぶつかる\* なれる 志す (海に) 面する (海に)  
臨む (危機に) 直面する 向かう 触れる\* さわる 似る\* (彼に)  
近づく (神社、寺に) もうでる

弾が彼に当たった←→ [彼が弾に当たった]

彼は何か冷たいものに触れた←→ [何か冷たいものが彼に触れた]

(注) \*印は「Yト」もとりうるが、意味的には、一方が他方に対する  
「Xガ Yニ 会う/ぶつかる/相談する X→Y」、お互い  
に相対する「Xガ Yト 会う /ぶつかる/相談する X→←  
Y」の違いがある

### [4] 相互動作

二者が互いに何かをすることを表す。

X (仕手) ガ Y (片方) ト ～スル

(例) 衝突する ぶつかる\* 喧嘩する 争う 戦う 戦争する 結婚する 見  
合いする 離婚する 心中する 駆け落ちする 通じる 愛し合う 憎  
み合う 別れる

太郎が花子と駆け落ちした



私とその男と喧嘩した

X (仕手) ガ Yヲ Z (片方) ニ/ト ~スル  
(例) 取り替える 合わせる

○移動・変化

[5] 移動

ある場所から他の場所へ動くことを表す。

・A「出る」動き

X (仕手) ガ Y (出どころ) ヲ/カラ ~スル

一般に直接受身にならない

(例) 出る 卒業する 離れる 降りる 飛び出す 逃げ出す 去る

部屋 (家/学校) を/から 出る

電車 (バス/土俵/舞台) を/から 降りる

国 (町/札幌) を/から たって/出発して

国 (親元/港/岸壁) を/から 離れる

学校を 卒業する

会社を やめる

会長職を 辞任する

頬から 血が引く

・B「通る」動き

X (仕手) ガ Y (通り道) ヲ ~スル

「Yヲ」は、下の a では必須補語、b では準必須補語

「V (出どころ) カラ」 「W (到達点・目的地) へ/ニ」がつけ加わることも  
ある (副次補語)

直接受身にならない

(例) a: 通る 通過する 過ぎる 経る 渡る 越す

利根川 (の鉄橋) を渡る

b: 歩く 走る 駆ける 這う 進む 飛ぶ

園児達が歩いている

・C「入る、着く；泊まる」類

X (仕手) ガ Y (到達点) ニ ~スル

「Z (出どころ) カラ」は、下の a、b では副次補語、c では共起しない  
直接受身にならない

(例) a: 入る 乗る 届く 着く 到着する 上がる 達する 至る 迫  
る 降りる 飛び込む かけ込む 移る 向かう 伝わる 感染  
する 進む 退く

部屋 (家/学校) に 入る

電車 (バス) に 乗る

国 (札幌) に 着いて/到着して

土俵 (舞台/座敷) に 上がる

雨が部屋に降り込む

b: 集まる 集中する 近づく 沈む 広まる 広がる

運動場に集まる

手が天井に届いた

郵便が先方に届いた

人口が1億に 近づく/迫る/達する

c: 泊まる 住む 下宿する 浮く 浮かぶ 立つ 座る 落ち着く  
こしかける 寝る 倒れる 向く 横たわる しゃがむ 横にな  
る しみる 傾く こもる 添う 残る 並ぶ

ホテルに泊まる

水面に浮く

あとに残る

椅子に座る

・C' 「入れる」類: 働きかけと移動の複合

X (仕手) ガ Y (受け手) ヲ Z (到達点) ニ ~スル

「W (出どころ) カラ」は、下の a では副次補語、b c ではとらない

(例) a: 入れる 乗せる 届ける 着ける あげる 落とす ほうり投げ  
る 詰め込む 書き込む 移す 向ける 閉じ込める 伝える  
退ける 置く 敷く しまう 近づける

母親が子供を風呂に入れる

b: 集める 沈める 広める 広げる 落ち着ける 捨てる

国分寺が仏教を全国に広める

c: 泊める 浮かべる 立てる 寝かす 倒す 横たえる 傾ける  
込める 添える 残す 並べる 比べる 比較する

彼が友達を家に泊める

・D 「行く」「来る」「帰る」「戻る」

X (仕手) ガ Y (到達点・目的地) ヘ/ニ 行く

X (仕手) ガ 来る/帰る/戻る [「Yヘ/ニ」は副次的補語]

「Z (出どころ) カラ」「W (通り道) ヲ」は副次的補語

直接受身にならない

[6] 変化

ある状態から他の状態に変わることを表す。

・A 「なる」類: 変化

X (主体) ガ Y (結果の状態) ニ ~スル

「Yニ」は下記の a では必須補語、b では準必須補語

「Z (出どころ・元の状態) カラ」は副次的補語

直接受身にできない

(例) a: なる 変わる 化ける 扮する なりさがる

信号が赤から青に変わった

b: 分かれる 分裂する 伸びる 縮む 増える 減る まとまる 割れる  
上がる 昇進する 落ちる 染まる かたまる 改まる  
発展する 生まれかわる 決まる

人口が3万から4万に増えた

・ A' 「変える」類: 働きかけと変化の複合

X (仕手) ガ Y (受け手) ヲ Z (変化の結果の状態) ニ〜スル

「Zニ」は a では必須補語、b では準必須補語

「W (出どころ・元の状態) カラ」は副次補語

(例) a: する 変える 決める 改める 選ぶ 起用する

彼は息子を医者にした

次の五輪会場をモンテリオールに決めた

彼を議長に選ぶ

彼女を大使に起用する

b: 増やす 減らす 伸ばす 縮める 上げる 下げる まとめる  
あたためる ひやす 熱する 冷却する 塗る 割る 裂く  
格下げする

[7] 授受

もの・事柄を与えたり受けたりすることを表す。

・ A 「与える」類

X (仕手) ガ Y (相手) ニ/ヘ Z (受け手: もの、こと、人) ヲ 〜スル

一般的には直接受身になるが、「やる」「くれる」とその敬語表現「あげる」

「くださる」等は受身にできない

(例) 与える 授ける 教える 見せる 示す 売る 貸す 預ける 紹介する  
やる あげる 賜る 差し上げる くれる くださる

家元が弟子に免許を 与える/授ける

銀行が彼に金を貸す

花子が私に中国語を教える

あなたは私の弟に本をくれた

・ B 「受ける」類

X (仕手) ガ Y (相手) ニ/カラ Z (受け手・もの) ヲ 〜スル

一般的には直接受身にならないが、まれに直接受身になることがある

(例) 受ける 授かる 賜る 頂戴する 受け取る 教わる 習う 学ぶ  
買う 借りる 預かる もらう いただく

彼がその男からこの絵を預かった

私が花子に中国語を教わる

太郎は次郎に犬をもらった

・ C 「命じる」類

X (仕手) ガ Y (相手) ニ Z (名詞: 事柄) ヲ 〜スル

Xガ Yニ …コトヲ/…ト ~スル

直接受身になる

(例) 命じる 命令する 要求する 要請する 頼む 強いる 強制する  
依頼する 信託する すすめる そそのかす 説明する 弁明する  
弁解する 感謝する

組合が会社に賃上げを要求する

組合がその団体に支援を感謝する

裁判所が会社に/会社が被害者に 1億円支払うことを/…支払えと  
命じた

## ○感情・感覚・思考

### [8] 感情

主体の感情を表す。

#### ・A 一時的な気の動き

X (感情主) ガ Y (誘因) ニ ~スル

(例) 驚く おびえる うろたえる とびあがる 安心する 安堵する  
怒る 興奮する 酔う 浮かれる 沸く 失望する

物音に 驚く/おびえる

その結果に 失望する

1点差に泣く

「副詞〔副詞的表現〕+する」

おろおろする ぎよっとする びくびくする

はっとする ほっとする うっとりする

がっくりする ぎよっとする がっかりする

#### ・B 能動的な心の動き、積極的な感情の発動：働きかけ

X (感情主) ガ Y (対象=目当て) ヲ ~スル

(例) 愛する 憎む いとしむ 恨む うらやむ 惜しむ 妬む やく  
喜ぶ 悲しむ 苦しむ 楽しむ 恥じる 悔いる なつかしむ  
恋する 好く 好む 嫌う 望む

人を 愛する/憎む

彼を うらやむ/恨む/ねたむ

復讐を 恐れる/心配する

自由を楽しむ

成功を喜ぶ

#### ・C 対象に対する態度：対面動作

X (仕手) ガ Y (相手) ニ ~スル

(例) 恋する 惚れる あこがれる

### [9] 感覚

X (主体) ガ Y (名詞=対象) ヲ ~スル……働きかけ

Xガ コト (現象=対象)ヲ ~スル

(例) 見る 見守る 見つける 見いだす 聞く 感じる

[10] 思考

X (主体)ガ Y (名詞)ヲ ~スル

Xガ …コトヲ/…ト ~スル

(例) 思う 考える 信じる 疑う 思い出す 恥じる

人が神を信じる

人が神が存在することを信じる

[11] 発話行為

・A 対象に対する態度：対面動作

X (仕手)ガ Y (相手)ニ ~スル

(例) どなる 話しかける

・B 「命じる」類：授与

X (仕手)ガ Y (相手)ニ Z (名詞：事柄)ヲ ~スル

Xガ Yニ …コトヲ ~スル

(例) 言う ささやく 命じる 命令する

・C 引用の「ト」の形

X (主体)ガ … (内容)ト ~スル

(例) 言う 告げる 話す 教える 叫ぶ わめく どなる ささやく  
尋ねる 問う 答える 命じる 頼む すすめる

○その他

[12] その他の動作・作用

上記の [1] ~ [11] に属さないもの。

X (主体)ガ ~スル

基本的には、主体を表すガ格以外の格を必要としない

(例) 夜が明ける

日が暮れる

川が流れる

草原に雨が降る

会が終わる

電話がかかる

人が生まれる

時がたつ

命が助かる

会費が5千円で済んだ

●状態

[13] 生起

出来事が発生することを表す。

X (出来事) ガ ~

「Y (場所) デ」は、副次的補語

(例) ある 起こる 発生する 始まる

きのう地震があった

けさ交差点で事故があった

[14] 存在

あるものがある空間を占めて存在することを表す。

X (存在するもの) ガ ~

「Y (存在の場所、位置) ニ」は、準必須補語

Xが人、動物であれば「いる」「いない」、それ以外であれば「ある」「ない」

(例) ある いる

あそこに魚屋がある

あそこに魚屋さんがある

[15] 所有

主体があるものを所有していることを表す。

X (存在するもの) ガ Y (Xを所有する人、Xが所属する人) ニ ~

(例) ある いる 持つ

彼女に子供があるとは知らなかった

先生には子供が二人ありました

彼女は妖しい魅力を持っている

あの人は免許証がありますか

[16] 関係認定

どういう関係の状態にあるかを表す。

・A X (存在するもの) ガ Yニ ~

直接受身にならない

(例) 優る 劣る 異なる 違う あたる 堪える 負ける 余る

兄に劣る

叔母にあたる

種類が違う

あの人には負ける

鑑賞に堪える

・B X (存在するもの) ガ Yヲ ~

直接受身になる

(例) 含む 占める

ミネラルを含む

半分を占める

[17] その他の状態

上記の [13] ~ [16] に属さないもの。

可能の意味や、「～ている」の形で現在の状態を表すものなど。

(例) できる すぎる 見える 聞こえる わかる

運転ができる  
海が見える  
音が聞こえる  
英語がわかる  
山がそびえている  
彼は変わっている

#### 2.3.8.1 動作・作用を表す動詞と状態を表す動詞

いわゆる状態動詞か動作動詞かは、テンスとアスペクトによって判断している。

終止形の表すテンスが、動作動詞の場合は「未来」を表し、動作動詞以外の場合は「現在（及び未来も）」を表している。

(例) 彼は(明日) 京都に行く [未来] (動作動詞)  
× (今) 京都に行く ←現在の事象を表さない  
(来週) この水路には水が流れる [未来] (動作動詞)  
× (今) この水路には水が流れる ←現在の事象を表さない

彼は(今/来週) 東京にいる [現在(及び未来)] (状態動詞)

「テイル」形については、動作動詞はテイル形の形で「現在」の事象を表し、状態動詞はふつうテイル形で使えない。

この他に、いつもテイル形で使われるものと、「存在する」「実在する」「適する」などのようにテイルがついてもつかなくても意味の変わらないものがある。

(例) 彼は(今) 京都に行っている [現在] (動作動詞)  
(今) この水路に水が流れている [現在] (動作動詞)  
×彼は(今/来週) 東京にいる ←テイル形にできない(状態動詞)  
彼は変わっている ←いつもテイル形で使われる(状態を表す)  
神は存在している/する ←意味が変わらない(状態を表す)

これらの基本的な部分の判断基準をまとめると次のようになる。

(動詞の分類は金田一春彦の「国語動詞の一分類」によっている)

|           |     |               |
|-----------|-----|---------------|
|           | No  | =====         |
| 終止形で使えるか  | →   | 第4種の動詞(状態を表す) |
|           |     | =====         |
| ↓ Yes     |     | [いつもテイル形]     |
|           |     |               |
| 終止形で現在の事象 | Yes | =====         |
| を表せるか     | →   | 状態動詞(可能形も含む)  |
|           |     | =====         |
| ↓ No      |     | [テイル形にならない]   |

動作動詞（動作・作用を表す動詞）

[テイル形で現在の事象]

↓

↓

=====

継続動詞

=====

=====

瞬間動詞

=====

## 2.4 構文情報

動詞が次のような形式をとるかどうかを語義ごとに記述する。

補助動詞になる：補助動詞としての用法。

（今回の辞書内容には該当するものがない。）

可能動詞：可能動詞としての用法。

（例）見える

使役動詞：使役動詞としての用法。

（例）聞かせる

引用の「と」をとる：引用の格助詞「と」のつく補文をとる。

（例）言う 思う

疑問の「か」をとる：疑問の終助詞「か」のつく補文をとる。

（例）尋ねる 調べる

尊敬語：尊敬の意味を表す。

（例）なさる おっしゃる

謙譲語：謙譲の意味を表す。

（例）いたす 申し上げる

丁寧語：丁寧の意味を表す。

（例）（食事を）いただく

## 2.5 備考

備考欄には、語義の典拠、国語辞典等の自動詞・他動詞の別、格、ヴォイス、アスペクトについてのコメントなどを、語義ごとに記述している。

記述の中の書名は、以下のように省略してある。

『例解』：『例解新国語辞典』

『新明解』：『新明解国語辞典』

『詳解』：『詳解国語辞典』

『岩波』：『岩波国語辞典』

『学研』：『学研国語大辞典』

IPAL：『計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL』



## 参考文献

- [1]林四郎, 野元菊雄, 南不二男, 国松昭, "例解新国語辞典 第四版", 三省堂, 1993
- [2]金田一京助, 見坊豪紀, 金田一春彦, 柴田武, 山田忠雄, "新明解国語辞典 第三版", 三省堂, 1985
- [3]山田明穂, 秋元守英, "詳解国語辞典", 旺文社, 1985
- [4]西尾実, 岩淵悦太郎, 水谷静夫, "岩波国語辞典 第五版", 1994
- [5]金田一春彦, 池田弥三郎, "学研国語大辞典 第二版", 学習研究社, 1992
- [6]小泉保, 船城道雄, 本田 治, 仁田義雄, 塚本秀樹, "日本語基本動詞辞典", 大修館書店, 1991
- [7]"計算機用日本語基本動詞辞書 IPAL(Basic Verbs)", 情報処理振興事業協会技術センター, 1993
- [8]国立国語研究所, "分類語彙表", 秀英出版, 1975
- [9]大野晋, 浜西正人, "類語国語辞典", 角川書店, 1985
- [10]益岡隆志, 田窪行則, "基礎日本語文法 改訂版", くろしお出版, 1994
- [11]寺村秀夫, "日本語のシンタクスと意味 第I巻", くろしお出版, 1982
- [12]寺村秀夫, "日本語のシンタクスと意味 第II巻", くろしお出版, 1994
- [13]寺村秀夫, "日本語のシンタクスと意味 第III巻", くろしお出版, 1991
- [14]金田一春彦, "日本語動詞のアスペクト", 麦書房, 1978
- [15]森山卓郎, "日本語動詞述語文の研究", 明治書院, 1988
- [16]久野すすむ, "日本文法研究", 大修館書店, 1986
- [17]永田昌明, 衛藤純司, "日本語基本辞書の概要" TR-I-0250, エイ・ティ・アール自動翻訳電話研究所, 1992.3
- [18]永田昌明, 衛藤純司, "日本語基本辞書の意味情報に関する検討" TR-I-0251, エイ・ティ・アール自動翻訳電話研究所, 1992.3
- [19]井ノ上直己, 小倉健太郎, 森元逞, "言語データベース用格・係り受け意味体系" TR-I-0029, エイ・ティ・アール自動翻訳電話研究所, 1988.8
- [20]"CD-HIASK'90 朝日新聞全文記事情報", 紀伊國屋書店, 日外アソシエーツ
- [21]"CD-HIASK'91 朝日新聞全文記事情報", 紀伊國屋書店, 日外アソシエーツ

## 謝辞

本辞書およびマニュアルの作成は日本アイアール株式会社(東京)に負うところが大きい。日本アイアールの担当者にこの場を借りて感謝いたします。

## 付録 A 1 基本フォーマット

### 【見出し語】

#### 【見出し語の読み】

#### 【見出し語の品詞】

### 【形態素情報】

#### 《ATR 辞書の見出し》

#### 《ATR 辞書の品詞》

#### 《ATR 辞書の活用型》 1. 五段

2. 一段

3. カ変

4. サ変

5. 特殊

#### 《ATR 辞書の活用行》 1. ア行 2. カ行 3. ガ行 4. サ行 5. ザ行 6. タ行

7. ダ行 8. ナ行 9. ハ行 10. バ行 11. マ行 12. ヤ行

13. ラ行 14. ワ行

#### 《ATR 辞書の語幹》

#### 《ATR 辞書の異表記》

#### 《ATR 辞書の標準形》

#### 《音便・連濁》 1. イ音便

2. ウ音便

3. 撥音便

4. 促音便

5. 連濁

### 【意味情報】

#### 《語義》

#### 《国分》

#### 《角分》

#### 《自他》 1. 自動詞

2. 他動詞

#### 《用例》

#### 《格と名詞の意味素性》

格番号／表層格／深層格／名詞の意味素性／名詞句の例

#### 《ヴォイス》 1. 直接受身

2. 間接受身

#### 《アスペクト》 1. ている

2. [動きの最中]

3. [心的状態の持続]

4. [結果の残存]

5. [経験・完了]

6. [単純状態]

7. である

8. [結果の持続]

9. [有効性の持続]

《意味分類》◆動作・作用

◇二者の関係

1. 働きかけ
2. 創る行為（創作）
3. 対面動作
4. 相互動作

◇移動・変化

5. 移動
6. 変化
7. 授受

◇感情・感覚・思考

8. 感情
9. 感覚
10. 思考
11. 発話行為

◇その他

12. その他の動作・作用

◆状態

13. 生起
14. 存在
15. 所有
16. 関係認定
17. その他の状態

- 【構文情報】
1. 補助動詞になる
  2. 可能動詞
  3. 使役動詞
  4. 引用の「と」をとる
  5. 疑問の「か」をとる
  6. 尊敬語
  7. 謙譲語
  8. 丁寧語

【備考】

## 付録 A 2 データ例

【見出し語】 探す・捜す

【見出し語の読み】 さがす

【見出し語の品詞】 動詞\*\*

【形態素情報】

《ATR 辞書の見出し》 捜

《ATR 辞書の品詞》 本動詞

《ATR 辞書の活用型》 1. 五段

《ATR 辞書の活用行》 4. サ行

《ATR 辞書の語幹》 捜

《ATR 辞書の異表記》 探 さが

《ATR 辞書の標準形》 探す

《音便・連濁》

【意味情報】

《語義》 欲しいものや、なくしたものを見つけだそうとする。

《国分》 試験・計量・探求・発見：2.3062

《角分》 搜索：426

《自他》 1. 自動詞

2. 他動詞 ○

《用例》 犯人〔を〕 捜す R

あら〔を〕 探す R

彼女〔は〕 さいふ〔を〕 探している K

望遠鏡〔で〕 火星〔を〕 探す K

私の会社〔は〕 英語ができる人〔を〕 探している K

両親〔が〕 行方不明の娘〔を〕 捜している K

警察〔は〕 全力〔で〕 殺人犯〔を〕 捜している K

鳥〔が〕 えさ〔を〕 探す K

人の欠点〔を〕 探す K

空き地〔を〕 探す K

地図〔で〕 大島〔を〕 探す K

娘の嫁の口〔を〕 探す K

母親〔は〕 血眼になって町中〔を〕 捜した K

警察〔は〕 犯人のマンション〔を〕 捜した K

ポケットの中〔を〕 捜す K

彼女〔は〕 ライバルのあら〔を〕 捜した IPAL

彼〔は〕 毎日職〔を〕 捜した IPAL

イタリア料理のレストラン〔を〕 さがしているんです TR

祇園の辺り〔で〕 探しているんですけれども TR

《格と名詞の意味素性》

格1 / が は / AGEN / hum anim org / 彼 鳥 警察

格2 / を / OBJE / conc hum abs loc / 財布 火星 餌 犯人 あら 欠点 職 マンション

格3 / で / INST / conc / 望遠鏡

格4 / で / COND / loc / 祇園 辺り

格5 / で / MANN / abs / 全力

格6 / で / LOCT / conc / 地図

《ヴォイス》 1. 直接受身 ○

2. 間接受身 ○

3. 使役 ○

4. 可能 ○

- 《アスペクト》
1. ている ○
  2. [動きの最中] ○
  3. [心的状態の持続]
  4. [結果の残存]
  5. [経験・完了]
  6. [単純状態]
  7. である
  8. [結果の持続]
  9. [有効性の持続]

《意味分類》◆動作・作用

◇二者の関係

1. 働きかけ ○
2. 創る行為 (創作)
3. 対面動作
4. 相互動作

◇移動・変化

5. 移動
6. 変化
7. 授受

◇感情・感覚・思考

8. 感情
9. 感覚
10. 思考
11. 発話行為

◇その他

12. その他の動作・作用

◆状態

13. 生起
14. 存在
15. 所有
16. 関係認定
17. その他の状態

【構文情報】1. 補助動詞になる

2. 可能動詞
3. 使役動詞
4. 引用の「と」をとる
5. 疑問の「か」をとる
6. 尊敬語
7. 謙譲語
8. 丁寧語

【備考】

【見出し語】 集合する

【見出し語の読み】 しゅうごうする

【見出し語の品詞】 動詞\*

【形態素情報】

《ATR 辞書の見出し》 集合

《ATR 辞書の品詞》 サ変名詞

《ATR 辞書の活用型》

《ATR 辞書の活用行》

《ATR 辞書の語幹》

《ATR 辞書の異表記》

《ATR 辞書の標準形》 集合

《音便・連濁》

【意味情報 1/2】

《語義》 集まっていっしょになること。

《国分》 離合・集合：1.1550 (体の類)

《角分》 集中：227a 群集：710

《自他》 1. 自動詞 ○

2. 他動詞

《用例》 校庭〔に〕 集合する SD

京都駅の烏丸口〔に〕 十二時四五分〔に〕 集合してください TR

《格と名詞の意味素性》

格1 / が<sup>s</sup> / AGEN / hum org / 彼 委員

格2 / に / DEST / loc / 校庭

格3 / に / TLOC / time / 12時45分

《ヴォイス》 1. 直接受身

2. 間接受身 ○

3. 使役 ○

4. 可能 ○

《アスペクト》 1. ている ○

2. [動きの最中]

3. [心的状態の持続]

4. [結果の残存] ○

5. [経験・完了]

6. [単純状態]

7. である

8. [結果の持続]

9. [有効性の持続]

《意味分類》 ◆ 動作・作用

◇ 二者の関係

1. 働きかけ

2. 創る行為 (創作)

3. 対面動作

4. 相互動作

◇ 移動・変化

5. 移動 ○

6. 変化

7. 授受

◇ 感情・感覚・思考

8. 感情

9. 感覚

10. 思考

11. 発話行為

◇その他

12. その他の動作・作用

◆状態

13. 生起  
14. 存在  
15. 所有  
16. 関係認定  
17. その他の状態

【構文情報】 1. 補助動詞になる

2. 可能動詞  
3. 使役動詞  
4. 引用の「と」をとる  
5. 疑問の「か」をとる  
6. 尊敬語  
7. 謙譲語  
8. 丁寧語

【備考】 語義：『詳解』の語義を自他に分割

【意味情報 2/2】

《語義》集めていっしょにすること。

《国分》離合・集合：1.1550（体の類）

《角分》集中：227a 群集：710

《自他》 1. 自動詞  
2. 他動詞 ○

《用例》役員〔を〕集合する SD

《格と名詞の意味素性》

格1／が／AGEN／hum org／彼 委員

格2／を／OBJE／hum／役員

《ヴォイス》 1. 直接受身  
2. 間接受身  
3. 使役 ○  
4. 可能 ○

《アスペクト》 1. ている ○  
2. [動きの最中] ○  
3. [心的状態の持続]  
4. [結果の残存]  
5. [経験・完了] ○  
6. [単純状態]  
7. である ○  
8. [結果の持続]  
9. [有効性の持続] ○

《意味分類》◆動作・作用

◇二者の関係

1. 働きかけ ○  
2. 創る行為（創作）  
3. 対面動作  
4. 相互動作

◇移動・変化

5. 移動  
6. 変化  
7. 授受

◇感情・感覚・思考

8. 感情

- 9. 感覚
- 10. 思考
- 11. 発話行為

◇その他

- 12. その他の動作・作用

◆状態

- 13. 生起
- 14. 存在
- 15. 所有
- 16. 関係認定
- 17. その他の状態

【構文情報】 1. 補助動詞になる

- 2. 可能動詞
- 3. 使役動詞
- 4. 引用の「と」をとる
- 5. 疑問の「か」をとる
- 6. 尊敬語
- 7. 謙譲語
- 8. 丁寧語

【備考】 語義：『詳解』の語義を自他に分割



付録 A 3 テキスト形式辞書データとリスプ形式データの対応 (例)

機械処理の容易さのためにリスプ形式データを作成してある。  
数字の (1)(2)(3)・・・の部分が対応している。

・テキスト形式辞書データ

|                       |      |
|-----------------------|------|
| 【見出し語】会う・遭う           | (1)  |
| 【見出し語の読み】あう           | (2)  |
| 【見出し語の品詞】動詞**         | (3)  |
| 【形態素情報】               | (4)  |
| 《ATR 辞書の見出し》会         | (5)  |
| 《ATR 辞書の品詞》本動詞        | (6)  |
| 《ATR 辞書の活用型》1. 五段     | (7)  |
| 《ATR 辞書の活用行》14. ヲ行    | (8)  |
| 《ATR 辞書の語幹》会          | (9)  |
| 《ATR 辞書の異表記》逢 あ       | (10) |
| 《ATR 辞書の標準形》会う        | (11) |
| 《音便・連濁》4. 促音便         | (12) |
| 【意味情報 1/2】            | (13) |
| 《語義》「会う」人と顔を合わせる。     | (14) |
| 《国分》応接：2.351          | (15) |
| 《角分》出会い：781 面会：781a   | (16) |
| 《自他》 1. 自動詞 ○         | (17) |
| 2. 他動詞                |      |
| 《用例》人〔と〕会う R          | (18) |
| 人〔に〕会う R              |      |
| 弘〔は〕駅〔で〕偶然知人〔と〕会った K  |      |
| 恵子〔は〕喫茶店〔で〕恋人〔と〕会った K |      |
| 私〔は〕先日知人〔に〕会った IPAL   |      |
| 《格と名詞の意味素性》           | (19) |
| 格1／が は／AGEN／hum／彼     |      |
| 格2／に／GOAL／hum／彼女      |      |
| 格3／と／MUTL／hum／彼女      |      |
| 格4／で／LOCT／loc／駅 喫茶店   |      |
| 《ヴォイス》 1. 直接受身        | (20) |
| 2. 間接受身 ○             |      |
| 3. 使役 ○               |      |
| 4. 可能 ○               |      |
| 《アスペクト》 1. ている ○      | (21) |
| 2. [動きの最中] ○          |      |
| 3. [心的状態の持続]          |      |
| 4. [結果の残存]            |      |
| 5. [経験・完了]            |      |
| 6. [単純状態]             |      |
| 7. てある                |      |
| 8. [結果の持続]            |      |
| 9. [有効性の持続]           |      |
| 《意味分類》◆動作・作用          | (22) |
| ◇二者の関係                |      |
| 1. 働きかけ               |      |

- 2. 創る行為（創作）
  - 3. 対面動作
  - 4. 相互動作 ○
  - ◇移動・変化
    - 5. 移動
    - 6. 変化
    - 7. 授受
  - ◇感情・感覚・思考
    - 8. 感情
    - 9. 感覚
    - 10. 思考
    - 11. 発話行為
  - ◇その他
    - 12. その他の動作・作用
  - ◆状態
    - 13. 生起
    - 14. 存在
    - 15. 所有
    - 16. 関係認定
    - 17. その他の状態
- 【構文情報】 1. 補助動詞になる (23)
- 2. 可能動詞
  - 3. 使役動詞
  - 4. 引用の「と」をとる
  - 5. 疑問の「か」をとる
  - 6. 尊敬語
  - 7. 謙譲語
  - 8. 丁寧語
- 【備考】 (24)
- 【意味情報 2/2】 (25)
- 《語義》「遭う」物事にでくわす。また、経験する。
- 《国分》
- 《角分》直面：283a 経験：427a 遭難・避難：457b
- 《自他》
- 1. 自動詞 ○
  - 2. 他動詞
- 《用例》災難〔に〕遭う R
- ひどい目〔に〕遭う R
- 父〔は〕途中〔で〕交通事故〔に〕遭った K
- 夕立〔に〕遭う K
- 会社〔は〕盗難〔に〕遭った K
- 当局〔は〕激しい抵抗〔に〕遭っている K
- 彼〔は〕帰る途中〔で〕夕立〔に〕遭った IPAL
- 《格と名詞の意味素性》
- 格1／が は／EXPR／hum org／彼 会社
- 格2／に／OBJE／abs act／災難 ひどい目 夕立 盗難
- 格3／で／TLOC／abs／帰る途中
- 《ヴォイス》
- 1. 直接受身
  - 2. 間接受身
  - 3. 使役 ○
  - 4. 可能
- 《アスペクト》
- 1. ている ○
  - 2. 〔動きの最中〕

3. [心的状態の持続]
4. [結果の残存]
5. [経験・完了] ○
6. [単純状態]
7. である
8. [結果の持続]
9. [有効性の持続]

《意味分類》◆動作・作用

◇二者の関係

1. 働きかけ
2. 創る行為（創作）
3. 対面動作 ○
4. 相互動作

◇移動・変化

5. 移動
6. 変化
7. 授受

◇感情・感覚・思考

8. 感情
9. 感覚
10. 思考
11. 発話行為

◇その他

12. その他の動作・作用

◆状態

13. 生起
14. 存在
15. 所有
16. 関係認定
17. その他の状態

【構文情報】1. 補助動詞になる

2. 可能動詞
3. 使役動詞
4. 引用の「と」をとる
5. 疑問の「か」をとる
6. 尊敬語
7. 謙譲語
8. 丁寧語

【備考】

・リスブ形式データ

|                                    |                    |
|------------------------------------|--------------------|
| <Verb> ( 1)                        | 通し番号               |
| <Midasi> 会う・遭う)                    | (1)                |
| <Yomi> あう)                         | (2)                |
| <Hinsi> 動詞**)                      | (3)                |
| <Keitai>                           | (4)                |
| <AtrMid> 会)                        | (5)                |
| <AtrHin> 本動詞)                      | (6)                |
| <AtrKata> 1 五段)                    | (7)                |
| <AtrGyou> 14 ワ行)                   | (8)                |
| <AtrGokan> 会)                      | (9)                |
| <AtrIhyou> 逢 あ)                    | (10)               |
| <AtrHyojun> 会う)                    | (11)               |
| <AtrOnbin> 4 促音便)                  | (12)               |
| )                                  |                    |
| <ImiJoho> ( 2)                     | 意味情報が2つある          |
| <Imi> ( 1)                         | (13) 1/2 に対応       |
| <Gogi> 「会う」人と顔を合わせる。)              | (14)               |
| <Koku> 応接：2.351)                   | (15)               |
| <Kado> 出会い：781 面会：781a)            | (16)               |
| <Jita> Vi)                         | (17) Vi:自動詞 Vt:他動詞 |
| <Yourei>                           | (18)               |
| (人[と]会う R)                         |                    |
| (人[に]会う R)                         |                    |
| (弘[は]駅[で]偶然知人[と]会った K)             |                    |
| (恵子[は]喫茶店[で]恋人[と]会った K)            |                    |
| (私[は]先日知人[に]会った IPAL)              |                    |
| )                                  |                    |
| <Kaku>                             | (19)               |
| (格1(がは)(AGEN)(hum)彼)               |                    |
| (格2(に)(GOAL)(hum)彼女)               |                    |
| (格3(と)(MUTL)(hum)彼女)               |                    |
| (格4(で)(LOCT)(loc)駅喫茶店)             |                    |
| )                                  |                    |
| <Voice> (2 3 4))                   | (20)               |
| <Aspc> (1 2))                      | (21)               |
| <Imibun> (4))                      | (22)               |
| <Kobun> ())                        | (23)               |
| <Bikou>                            | (24)               |
| )                                  |                    |
| )                                  |                    |
| <Imi> ( 2)                         | (25) 2/2 に対応       |
| <Gogi> 「遭う」物事にでくわす。また、経験する。)       |                    |
| <Koku> )                           |                    |
| <Kado> 直面：283a 経験：427a 遭難・避難：457b) |                    |
| <Jita> Vi)                         |                    |
| <Yourei>                           |                    |
| (災難[に]遭う R)                        |                    |
| (ひどい目[に]遭う R)                      |                    |
| (父[は]途中[で]交通事故[に]遭った K)            |                    |
| (夕立[に]遭う K)                        |                    |
| (会社[は]盗難[に]遭った K)                  |                    |

(当局〔は〕激しい抵抗〔に〕遭っている K)  
(彼〔は〕帰る途中〔で〕夕立〔に〕遭った IPAL)

)

<Kaku>

(格1 (が は) (EXPR) (hum org) 彼 会社)  
(格2 (に) (OBJE) (abs act) 災難 ひどい目 夕立 盗難)  
(格3 (で) (TLOC) (abs) 帰る途中)

)

<Voice> (3))

<Aspc> (1 5))

<Imibun> (3))

<Kobun> (0)

<Bikou>

)

)

)

)

# 付録 A 4 日本語基本辞書 (Ver.1) の深層格との違い

Ver.2 動詞辞書において、Ver.1 にあるいくつかの深層格は使用されていない。

| [意味格名]              | [説明]           | [例]                        |
|---------------------|----------------|----------------------------|
| AFFD<br>(affected)  | 被害の受身などにおける被害者 | 彼女は/ 母親に死なれた               |
| DEGR<br>(degree)    | 程度             | あまり/ 自信がない<br>死ぬほど/ 疲れた    |
| FREQ<br>(frequency) | 頻度             | しばしば                       |
| INFMANN             | 陳述             | ぜひ出席してください                 |
| INFEVAL             | 評価             | あいにく出席できません?               |
| INFATTD             | 発言             | やっぱりそうでしたか?                |
| OPPS                | 逆説             | よく読んだけど、/ 理解できない           |
| PREM                | 前提             | こうなった以上、/ どうしようもない         |
| CONTR               | 対比             | 大学教師は 給料が安い反面、/ 休暇が多い      |
| SIML                | 時間的相関          | 経済が発展するにつれて、/ 社会矛盾も拡大する    |
| UNEX                | 予想外            | あいつは俺に感謝するどころか、/ 俺の顔に泥を塗った |

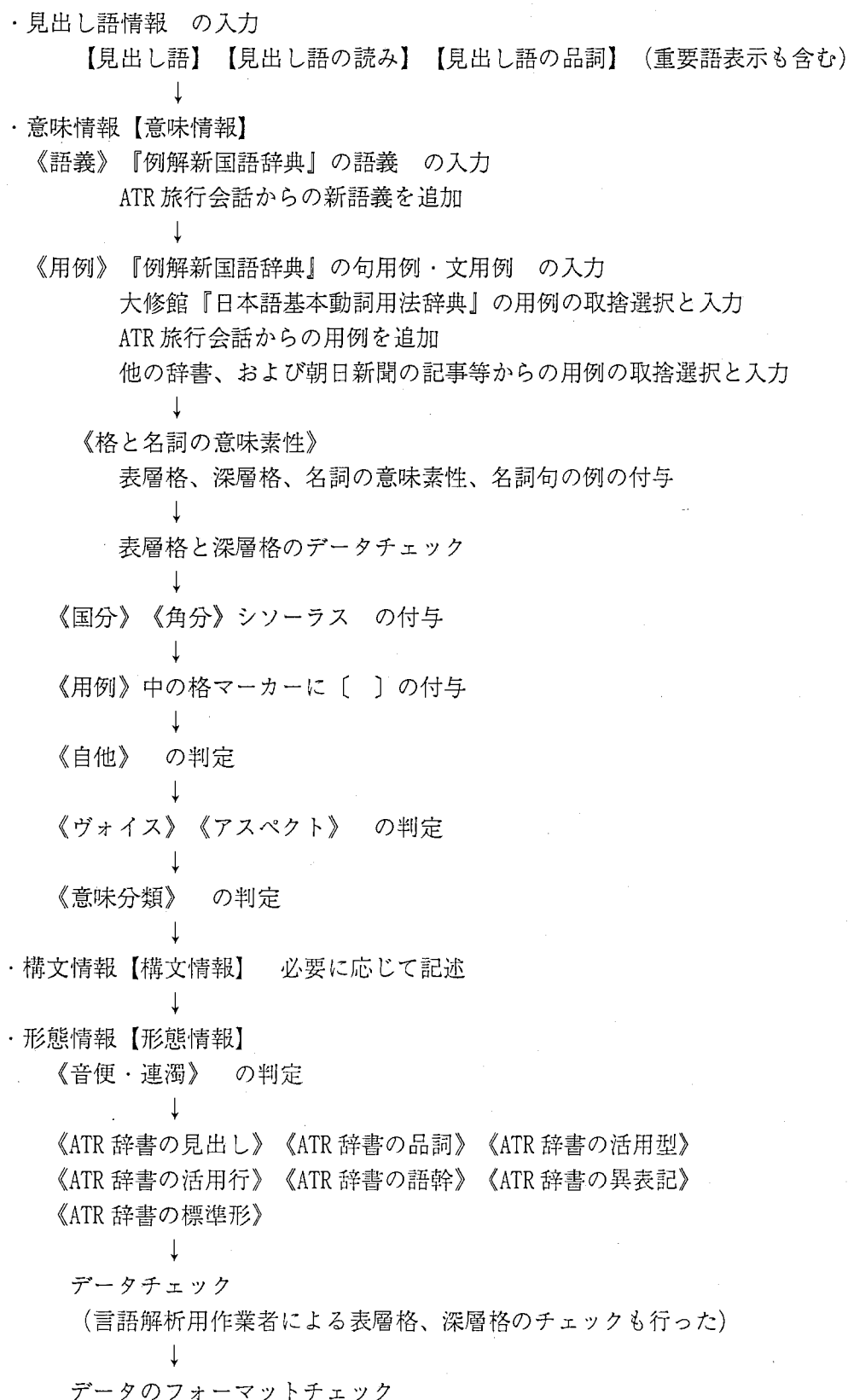
AFFD は EXPR に統合された (ただし、音声言語データベース中に用例はない)。

DEGR 以下の副詞修飾あるいは接続関係を示す深層格は、Ver.2 動詞辞書では使用されていない。

Ver.2 動詞辞書においては Ver.1 にない次の深層格が使用されている。

|      |           |             |
|------|-----------|-------------|
| IDEN | Copula 補語 | 登録料は～円になります |
|------|-----------|-------------|

## 付録 A 5 作業の流れ



## 付録 A 6 見出し語

ATR 音声翻訳通信研究所の音声言語データベース (SLDB) の 344 会話<sup>4</sup>中に出現する本動詞・サ変名詞 665 語のうち『例解新国語辞典』に「見出し」「副見出し」として立項のあるもの、サ変動詞は「する」の形を認めているものを見出し語とした。

見出し語件数：501

品詞別件数

動詞：495

連語：1

ございます

複合動詞（慣用表現）：5

気が付く

気に入る

気を付ける

手に入れる

役に立つ

ATR 辞書の品詞別件数

本動詞：299

サ変名詞：202

重要語件数

\*\*（最重要語）：221

\*（重要語）：187

（注）見出し語の形が『例解新国語辞典』と ATR 辞書で異なる場合は、ATR 辞書の立項形にそろえて、『例解新国語辞典』の見出し語を分割した。その分割された各々の動詞を本辞書では見出し語として扱っている。したがって、見出し語の 501 語の中には「本動詞・サ変名詞 665 語」にない語も含まれている。

（例）『例解新国語辞典』の見出し語：「尋ねる・訪ねる」

語義 1 「尋ねる」

語義 2 「尋ねる」

語義 3 「訪ねる」

ATR 辞書の見出し語：「尋ねる」

「訪ねる」

↓

本辞書の見出し語：「尋ねる」

（「665 語」中にあり）

「訪ねる」

（「665 語」中になし）

<sup>4</sup> 当動詞辞書作成時に形態素解析が終了していた会話。



「本動詞・サ変名詞 665 語」中にある語で、見出し語としなかったものは以下の通り。

a. 『例解新国語辞典』に立項のない可能動詞：34 件

|         |            |
|---------|------------|
| 会える     | 吸える        |
| あしらえる   | 済ませる       |
| 言える     | 座れる        |
| 行ける     | 出せる        |
| 頂ける     | 楽しめる       |
| いらっしゃれる | 食べれる       |
| 伺える     | 使える        |
| 承れる     | 作れる        |
| 移れる     | 泊まれる       |
| 選べる     | なされる       |
| 置ける     | 上れる        |
| 行える     | 飲める        |
| 踊れる     | 乗れる        |
| 返せる     | 入れる (はいれる) |
| 聞ける     | 戻れる        |
| 支払える    | もらえる       |
| しゃべれる   | 渡れる        |

b. 『例解新国語辞典』に立項のない使役形：3 件

急がせる  
飲ませる  
喜ばせる

c. 『例解新国語辞典』に立項はあるが、サ変動詞としての「する」の形を認めていないもの：26 件

|        |         |
|--------|---------|
| 幾分     | 親睦      |
| 飲食     | スイッチ    |
| 受付     | 速達      |
| 打ち合わせ  | ダンス     |
| 会議     | デコレーション |
| 感触     | 話       |
| 交通     | ファックス   |
| 参考     | プログラム   |
| 仕事     | 防音      |
| 支払い    | ミーティング  |
| 商談     | 申し込み    |
| ショッピング | 予算      |
| 所用     | レンタル    |

d. 『例解新国語辞典』に立項はあるが、名詞としているもの：1 件

ご覧

e. その他の『例解新国語辞典』に立項のない語：48 件

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 一泊     | 風邪を引く (副見出しとして立項されていない) |
| 入れ込む   |                         |
| おいでになる | 仮押さえ                    |
| お越す    | 仮予約                     |
| お届け    | ご一緒                     |
| 開館     | コーディネート                 |
| 開場     | ご覧になる                   |
| 買い求める  | ご覧になれる (可能動詞化)          |
| 書き替える  | 三泊                      |

税引き  
世話になる（副見出しとして立項されて  
いない）

走行  
備え付ける  
チェックアウト  
チェックイン  
突っ切る  
テーブルコーディネート  
同泊  
通り過ぎる  
取りそろえる  
取り出す  
何泊  
二泊  
入館

乗り換え  
乗り捨て  
発券  
払い戻し  
引き落とす  
引き渡し  
深める  
フライト  
プランニング  
閉館  
待ち合わせ  
見当たる  
免責  
役に立てる  
来館  
来店